

新型コロナウイルスワクチン接種

川口市立医療センター

呼吸器内科

は た のり ひこ
羽田 憲彦



2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症は、数カ月で世界中に広がり多くの人の命を奪い、人々は不自由な生活を強いられています。この感染症の治療法は未だ確立されておらず感染収束のためには、ワクチン接種が必要と考えられます。

ワクチン接種は、自分が感染しないことを期待するほか、同時に接種を受けていない人々を守るという集団免疫への期待もあります。すなわち、多くの人々が免疫を持っていると感染する人が減り、結果として免疫のない人も守られることとなります。

日本でのワクチン接種は医療従事者から開始され、4月中旬～高齢者(本市では高齢者施設の入所者等から接種を実施)に対し実施し、その後、基礎疾患のあるかたと進みます。心配される副反応ですが、接種部の痛みや腫れのほか、全身症状として、疲労、頭痛、筋肉痛、悪寒、発熱、嘔気などがありますが、大きな心配はありません。また、まれにですが、アナフィラキシーという比較的重いアレルギー反応が起こることがあり、^{じんましん}尋麻疹、喘鳴、血圧低下、嘔吐、腹痛などが接種後15～30分以内に出現します。適切な処置で今のところ症状は回復していますが、薬剤、果物など食物アレルギーのあるかたは注意が必要です。なお、花粉症、喘息といったアレルギー疾患のかたは大丈夫なようです。

特に高齢者、糖尿病、肥満、喫煙歴のあるかたは新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高く、副反応よりも効果の方が比重が高いと思われるので積極的にワクチン接種に参加してください。一人ひとりの接種が、この感染症の収束につながります。

大切な歯と口を守ろう！

歯や口は、食べることや、会話をしてコミュニケーションを楽しむために大切です。歯や口が健康だと、自分の歯でよく噛むことができ、美味しさを感じられるため、栄養状態にも良い影響をもたらします。また、口元や表情にも自信が持て、気持ちよく笑ったり、会話を楽しむこともできます。

歯周病に要注意!!

日本人が歯を失う2大原因は、むし歯と歯周病です。細菌が増殖し塊になったプラーク(歯垢)が、歯と歯肉の間に入り込み、炎症を引き起こします。これが歯周病の始まりで、痛みのないまま進行し、歯を支える骨を溶かし、気付いた時には自然と歯が抜け落ちるほど、進行していることもあります。

オーラルフレイルとは?

オーラルフレイルとは「歯や口の動きの衰え」です。加齢に伴い進行し、放っておくと口だけでなく全身の筋肉の衰えに繋がります。噛み込み力が徐々に低下します。しっかり噛むこと、会話を楽しむことで口周りの筋肉が鍛えられ、予防ができます。

大切な歯と口を守るために

- ・毎日の口腔ケア(丁寧な歯磨き、デンタルフロスや歯間ブラシの使用)
- ・定期的な歯科受診(プラークや歯石の除去、歯周ポケットの洗浄など)
- ・生活習慣(食生活や喫煙)の改善
- ・ストレスの発散

成人歯科健康診査・歯科ドックのご案内

【成人歯科健康診査】

歯や歯肉の状態からむし歯や歯周病の有無を確認し、噛み合わせを含めたお口の全体を調べます。

【歯科ドック】

唾液検査によって、むし歯菌などの活動判定や歯周炎に伴う潜血反応などから、お口の病気のリスクを調べます。

※30歳以上の市民 歯科健康診査…500円、歯科健康診査+歯科ドック…2,000円

※歯科ドックは歯科健康診査との同時受診のみ



毎日の口腔ケアと定期的な歯科受診で、いつまでも美味しく食べられる歯を保ち、笑顔で過ごしましょう。

問地域保健センター ☎048-256-2022 FAX048-256-2023

ワンポイント手話講座

今月は通勤、通学で利用するかたも多い「電車」と「バス」を紹介します。

電車

両手の人差し指と中指を使い、右手側はかぎ型に曲げます。左手の2本指の下に沿って右手を前に2回出します。



バス

両手の親指と人差し指を伸ばし、人差し指を向かい合わせて前に出します。



問障害福祉課

☎048-259-7926

FAX048-259-7943



本物は継承される

東京仏壇職人

岩田芳樹さん(兄)
岩田晴芳さん(弟)

江戸時代から続く伝統を伝える東京仏壇。精緻な技巧が尽くされ、堅牢な造りの中にも活かされた木目が美しい。この伝統と技術を綿々と受け継ぐ双子の職人がいる。「木材の選択から彫刻、塗り、組み立てに至るまで、木の良さを引き出すために妥協は一切許されません」と二人は語る。

ルーツは東京で父が始めた仏壇製作所。木材に囲まれ育った二人はその美しい木目の魅力の虜になり、21歳の頃から父に師事し、技術を磨いていった。「釘を使わず組み合わせた加工方法もそうですが、木の個性や癖を見抜く力の習得が肝要なんです」。長く使ってもらえるよう、丹念に手造りした仏壇は解体、再生も可能だ。「私たちが30年も前に製作した仏壇を、綺麗

な状態に戻して欲しいという依頼もあるんです」と晴芳さん。「先祖のために立派な仏壇を作ってくれて、ありがとうとお礼まで言われる。こんなにうれしいことはありません」。二人に共通する想いだ。共に高度な技術を持つ双子の兄弟。技術的な連携はもとより、お互いがアイデアを出し合い打開策が生まれることも。「加工の方法などで悩んだらすぐ兄弟で相談。二人分を超えた知恵が出ると思っています」。木の良さを知ってもらうようと、児童館などで著ぐくり体験教室を開催しているのは芳樹さんの発案。子どもたちもお手製の木箸には愛着を持ち、大喜びだ。「仏壇製作以外は考えたこともなかったけれど、兄から言葉でやってみてよかったです」と笑う。

扉の部分に伝統工芸の七宝を大胆に取り入れた仏壇が評判を集めるなど、伝統に新たな風を吹き込む試みを続け、令和2年度「川口市産業技術・技能者顕彰」で「川口輝き賞」を受賞。後進の育成にも力を入れ、晴芳さんの長男、隆さんも東京都伝統工芸士に認定されるなど技術の継承は続く。

住環境やライフスタイルの変化にあわせ、さまざまな仏壇が誕生している今にあって、頑なに伝統的な仏壇作りをこだわり続ける。その荘厳な美しさを持つ仏壇を前に手を合わせるとき、心地よい安寧と敬慕の念が心に訪れるはずだ。(洋)

